

収量・品質面で既存品種をうわまわるオクラの有望品種・系統

天草地域では水田転作品目としてオクラが栽培されており、莢の果皮色が濃緑の品種が好まれる傾向にあるため、現在の主要品種は‘ガリバー’であるが、収量・品質がうわまわる‘TE452’、‘ルイジアナ’が有望である。

農業研究センター天草農業研究所（担当者：石原稔郎）

研究のねらい

天草地域では水田転作品目としてオクラが栽培されており、濃緑色系莢の品種が好まれる傾向にある。現在の主要品種は‘ガリバー’（カネコ）であるが、収量性はそれほど高くない。そこで、オクラ品種・系統の特性を明らかにし、天草地域に適した、‘ガリバー’より高品質多収性の有望品種・系統を選定する。

研究の成果

- 1 総収穫本数は、‘KF427’（協和）が最も多く、次いで‘TE452’（タキイ）、‘ルイジアナ’（大和）で、主要品種‘ガリバー’と比較していずれも約2割程度増加する。（表1）
- 2 下物収量については、‘KF427’のイボ果発生率が最も高く、‘ルイジアナ’のみが主要品種‘ガリバー’よりイボ果発生率は少ない。（表2）
- 3 果皮色については、4品種とも濃緑で、その中でも‘TE452’、‘KF427’が濃い。
- 4 棚持ち調査では、収穫後7日目において、‘KF427’でほぼ全て切り口の顕著な黒変、カビの発生が認められる。‘ガリバー’、‘ルイジアナ’では黒変が目立ったものの、カビの発生は少ない。‘TE452’は変化がほとんどみられない。（表3）

以上の結果より‘KF427’、‘TE452’、‘ルイジアナ’は、現在の主要品種である‘ガリバー’を多収性や果皮色で同等か上まわる。

また、イボ果発生率、棚持ち調査の結果を併せると、‘TE452’、‘ルイジアナ’が有望である。

普及上の留意点

- 1 ‘TE452’、‘ルイジアナ’は慣行オクラ栽培同様に生育初期の過湿、追肥の遅れに注意する。

表1 収穫量

20株あたり

品種名	上物		下物		合計		上物率
	本数	重量	本数	重量	本数	重量	
	本	g	本	g	本	g	%
ガリバー	1,003	11,314	179	2,093	1,182	13,407	84.9
TE452	1,204	13,307	233	2,813	1,437	16,120	83.8
KF427	1,269	16,330	203	2,671	1,472	19,001	86.2
ルイジアナ	1,145	15,470	242	2,416	1,387	17,886	82.6

注) 上物率：合計本数に占める上物本数の割合

表2 下物収量の内訳・イボ果発生率

20株あたり

品種名	曲がり果		イボ果		病害虫果		その他		小計		イボ果発生率
	本数	重量	本数	重量	本数	重量	本数	重量	本数	重量	
	本	g	本	g	本	g	本	g	本	g	%
ガリバー	91	1,016	21	249	62	746	5	82	179	2,093	1.8
TE452	100	1,240	32	367	92	1,069	9	137	233	2,813	2.2
KF427	82	1,069	43	565	76	1,005	2	32	203	2,671	2.9
ルイジアナ	133	755	22	318	79	1,223	8	120	242	2,416	1.6

注) イボ果発生率：合計本数に占めるイボ果本数の割合

表3 棚持ち調査

10本あたり

品種名	収穫4日後		収穫7日後	
	切り口の黒変	切り口カビ発生	切り口の黒変	切り口カビ発生
	本	本	本	本
ガリバー	5	0	5	1
TE452	0	0	2	0
KF427	7	3	9	10
ルイジアナ	2	0	5	2

注1) 収穫後、穴あきポリエステル袋にて常温保存

2) 調査開始日：平成12年8月8日